



## 腎臓内科の扱う疾患

当科は名前の通り腎臓の内科的疾患を取り扱っております（腫瘍や尿路結石は取り扱っておりません）。高血圧、急性腎炎、慢性腎炎、膠原病（特に全身性エリテマトーデスなど）、全身性血管炎、先天性腎疾患（常染色体優性多発性嚢胞腎など）、電解質異常、急性腎不全、慢性腎不全、透析療法、腎臓移植（泌尿器科と協力）などが担当分野です。

例えば、むくみが出るようになってきた（腎臓の異常では、左右対称に症状が出る人が多いです）、検診やかかりつけのお医者さんで血尿、蛋白尿、高血圧や腎機能の障害を指摘された、腎臓にたくさんの嚢胞があるとされた、などは当科を受診すべき病気である可能性が高いです。

私たちは、先進の医療を提供できるように、日々研鑽を積んでおります。当科が扱っている疾患については、いつでも今の医学で受けられる最も良い医療を提供できるように準備し、患者さんの病気の治療と共に戦っていきたいと思っています。



## 腎臓内科はどんな研究をしているの？

当診療科では、先進の医療を提供する傍らで、医療の進歩に資するために、日々研究も精力的に行っています。その一部をご紹介します。

### ・腹膜透析患者さんにおける ARNI（エンレスト®）治療研究

腹膜透析患者さんにおいては、体内の余分な水や塩を除去する能力が低く、体内に塩水がたまりやすく、高血圧や浮腫が問題になることがあります。最近 ARNI という薬剤が、血圧を下げる役割以外に、腎保護や心保護に役立つことが判明し、腹膜透析患者さんでも余計な塩水のコントロールが容易になるという報告が散見されるようになってきています。当科ではこの点に注目して、腹膜透析患者さんでの ARNI の役割を解明する研究を行っています。

### ・慢性腎不全患者さんの透析導入時の低ナトリウム血症に関する研究

当診療科では毎年 100 名程度の慢性腎不全患者さんへの腎代替療法の導入を行っています。慢性腎不全の患者さんが透析導入時に低ナトリウム血症があるとその後の経過に悪い影響があることが推測されています。当科では地域の透析クリニックに転院された方も含めて、低ナトリウム血症の方がその後の経過にどのような影響があるかについて多数の患者さんでの解析を行っています。

### ・Exome sequencing 研究

現在様々な疾患に遺伝的な要素が様々な度合いで関与していることがわかってきています。腎臓の病気は想定されていた以上に遺伝的要素が深くかかわっていることが解明されつつあります。私たちの診療科では、これまでの検査（腎生検や採血、画像検査）でははっきりしない方を対象に遺伝情報全体を解析し、何らかの遺伝的要因が隠れていないかを研究しています。これによりフィブロンекチン腎症という世界でまだ 70 例程度の稀な疾患も当科では 3 名の診断をすることができました。すでに 100 名以上の方にご協力いただき、現在も進行中です。

### ・常染色体優性多発性嚢胞腎(ADPKD)の研究

当診療科では約 80 名の ADPKD の方の治療を行っています。現在はある種の利尿剤（サムスカ）が腎機能障害の進行を遅らせることが解り、保険適応となっており、多くの方がこの治療を行っています。この治療がどのような方に効きやすいのか、上記の遺伝的な素因と何らかの関係があるのではないかという点などについても研究を行っています。

### ・IgA 腎症患者さんの治療の効果についての研究

当診療科では毎年 20~30 名程度の IgA 腎症患者さんを診断し、治療しています。日本では扁桃摘出術+パルス療法がかなりの確率で奏功することが知られていますが、海外では疾患発見のタイミングが遅くこの治療の効果が認知されているとは言い難いです。当科では治療を行った方、行わなかった方（患者さんと相談して決めています）を比較して、その効果や特徴についての研究を行っています。

私たちの研究の一部を簡単にご紹介しました。腎臓内科では、このように高度な医療を実践するだけでなく、医学の進歩に寄与するべく、積極的に研究も行ってまいります。